

# 伊賀市民報

伊賀市民報  
No. 5 0  
2020年1月  
日本共産党  
伊賀市委員会  
上野福居町3315  
Tel21-2754

仕事・くらしの悩み  
お気軽に相談を

## 安倍政治追及とともに希望を語り 野党連合政権に道開く年に

### 国会議員候補者の新年の挨拶を紹介します。



衆議院議員 本村 伸子

2019年を振り返ると、市民十野党の共闘の信頼関係が強まり、希望の光がいつそう太くなっていると実感します。信頼関係の強まりは、憲法審査会で自民党の改憲4項目の提案を一秒たりともやせない大きな力となりました。2020年、いつそうつながって、一緒に声をあげ、一人一人の尊厳が何よりも大切にされる国づくりへ全力をあげてまいります。衆議院選挙、比例東海ブロックで2議席以上勝ちとるために、どうぞお力をお貸しください。



参議院議員 武田 良介

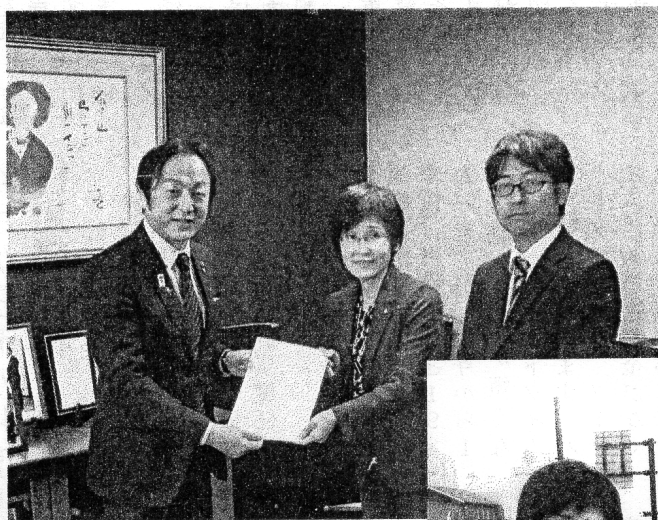
新年明けましておめでとうございます。台風19号など一連の災害が発生しました。被災された皆さんに、お見舞い申しあげますとともに、全国からのご支援に感謝申しあげます。桜を見る会の問題は、安倍政権の政権私物化の姿を国民の前に明らかにしました。この安倍政権を倒すべく、市民と野党の共闘は日々発展しています。憲法が開き、希望の持てる政治を実現する年となるよう、全力で頑張る決意です。



参議院議員 井上 さとし

新年おめでとうございます。昨年、参院選での皆様のご支援で四期目の当選ができました。11月には、田原総一朗さんのNPOから質問ランキング「三ツ星議員」の表彰を受けました。さらに皆さんの声を国会にしっかりと届け、実現させると決意を新たにしています。国会は季節外れの「桜」が満開。この桜は根腐れしています。市民と野党の共闘を進展させて倒しましょう。憲法と命が輝き、暮らしが花咲く政治実現へがんばります。

伊賀市に要望  
書を提出する  
百上まな議員  
とかまい敏行  
副委員長  
12月1日



前衆議院議員 島津 幸広

今年こそ安倍政権にサヨナラを。ウソとごまかしをこれ以上許してはならぬ。民主主義は地に落ち、日本の国が壊れてしまっています。まさに最悪・最低の政治です。「どうせ政治は変わらない」とあきらめていたら、変わらないどころか、貧困と格差の拡大、海外で戦争する国づくり・もさらに進みます。今ならまだ間に合います。来る総選挙で、市民と野党の共闘の勝利、日本共産党の躍進を勝ち取り、希望ある日本の国をつくりましょう。

うと  
行と  
を議  
伝な  
宣ま  
旦上  
元百  
か  
員長



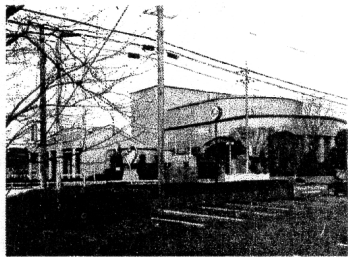
# 12月議会から



百上まな議員

## 伊賀支所といがまち図書館を含まないふるさと会館の複合施設化が決定

公共施設最適化計画の伊賀支所及び周辺施設の機能統合は、耐震のない伊賀支所・いがまち公民館・柘植公民館・西柘植地区市民センターの建物を廃止し、ふるさと会館のホール機能を廃止した上で大規模改修を行い、支所・公民館・地区市民センターが入るといふ複合施設化計画でした。ところが、支所といがまち公民館にある図書室をふるさと会館には入れず、西柘植地区市民センターといがまち公民館、歴史資料展示室のみが入る計画に大きく変更されました。



いがまちとふるさと会館

一方、支所や地区公民館のあり方について、行政内での検討がされており、2月に支所のあり方が示されるとのことでした。支所と図書館を公共施設に含まないというところは、廃止もあり得るとの疑念が残ります。「支所をなくさないでほしい」という住民の声もあの中で、百上議員は「緊急に計画変更についての住民説明会を開くとともに、2月の支所のあり方が示されるまでふるさと会館の複合施設化については継続審査にすべき」と反対しましたが、他の議員の賛成により支所と図書館を含まないふるさと会館の複合施設化が決定しました。

## 消防組織の再編 市民と消防職員の命を守る再編か

消防組織再編案が12月議会にて審議される前に、広報いがまち12月15日号に「皆さんの安全

と安心を守るために消防組織の再編を検討しています」という記事が掲載されました。

消防組織再編案は、「東消防署（いがまち）南消防署（青山）をそれぞれ分署にし、中消防署（消防本部に併設）を伊賀消防署にする」というものでした。それによって、火災や救急の出動件数が多い中消防署の人員は増えますが、東および南消防署は人員が半減し、救急車が出動できない状況になります。また、消防職員数が3人削減になり、救急車の到着も遅くなるなどの説明もありました。

委員会の審査では、「再編案に対し消防職員からは、賛成だけでなく懸念や反対の意見もあつた」との答弁がありました。

消防職員も自治体職員の定員適正化計画により削減する自治体が増えていますが、日本共産党は反対しています。伊賀市でも、高齢化とともに、今後大規模な災害発生が予測されます。よって消防職員の削減ではなく増員をして、市民の安全安心を守るべきです。

消防職員の増員による働き方改革をすすめ、市民の命と安全安心が守られる再編を求めて百上議員は議案に反対しましたが、賛成多数により再編案が可決しました。

## 保育の一貫性が崩れる 公立保育所の給食を民間委託へ

伊賀市には公立保育所が16所ありますが、給食現場の強い要望である正規調理員の採用を、一切していません。そのため正規調理員がいずれいなくなることを見越して、4月から3か所の公立保育所で給食調理を民間委託する予算が上程され、百上議員を除くすべての議員の賛成で決まりました。

保育所は、子どもにとっては家庭と同様に「生活する場」であり、保育所での食事は心身両面からの成長に大きな役割を担っています。また、豊かな食の体験を積み重ねる意欲を育む食育の一環でもあります。そして、個人差の大きい乳幼児期には子どもの状況に応じた食事が特に大切であるため、給食を作る調理員と食事の介助をする保育士が、連携して食事を提供することが大切です。

給食だけを民間委託すれば、偽装請負になるため直接調理員に指示することができず、調理員と保育士の連携もできなくなります。

正規調理員がいなくなる5年後には、すべての公立保育所の給食が、民間委託になると考えられます。また、コスト削減のために民間委託をするのであれば、さらに調理員の低賃金化も進みます。乳幼児期の子どもの安全安心の保育と給食を直営で継続することが行政の責任です。

## 4月から市の非正規職員が会計年度任用職員に 毎月の収入が減収に

伊賀市職員の約半数を占める1247人の非正規職員のうち、約1000人が4月から国の法改正により「会計年度任用職員」になります。

現在7時間45分週5日勤務のフルタイム非正規職員が保育士、給食調理員、用務員など198人いますが、4月から15分勤務時間が短くなり、すべてパートタイム任用職員になります。パートタイムには、フルタイムにある退職金がなくボーナスもわずか1.45か月分。ボーナスが出ても時給単価や月額収入が下がるため、今とほとんど変わらない状況です。年次有給休暇も正規職員は20日ですが、任用職員は現在の12日から10日に減らされるなど、収入減と待遇改善が必要と

総務省は、伊賀市のように7時間を超える特に7時間30分の勤務をパートにするこの合理的な説明は難しいとして、フルタイムにするよう助言しています。

会計年度任用職員の処遇についての条例は、9月議会にて百上議員を除くすべての議員の賛成で可決しました。しかし、非正規職員からは「仕事に見合った処遇」を求める声や「月額収入が減るのて困る」という声が寄せられています。住民サービスの向上のためにも非正規職員の正規職員化と待遇改善が必要です。

日本共産党発行

日刊 3497円  
日曜版 930円